種名	オ　ニ　バ　ス Euryale ferox 		
分類	被子植物双子葉離弁花類スイレン科	俗称	ミズブキ、イバラバス
生活型	1年草、浮葉植物3		
分布	宮城県および新潟県以南の本州から九州にかけて分布し、台湾、朝鮮半島、中国大陸、インドにも分布する。		
形態	根：株の基部は塊茎となり、多数のひげ根を束生するが、晩秋から冬にかけて腐ってしまい、越冬はしない。 茎：葉柄は塊茎から叢生して水面まで伸び、長さ1～2m、径2～3cmの円柱状で、内部に気道が発達する。 葉：葉は根生し、芽生えから出る初期の3～4枚は沈水葉で、針状形→矢尻形→矛形などの異形葉を経て、4～5枚目から水上葉（浮葉）となる。初期の水上葉は長楕円形で基部に切れ込みがあるが、十数枚目から円状楯形の成葉となる。 成葉の葉身部はほぼ円形で直径は 0.3～1.5m、ときに2m以上になる。表面は緑色で著しい皺があり、裏面は赤紫色で葉脈が網目状に隆起し、両面の脈上には刺がある。 花：花期は8～10 月。花は直径4cm位で、花柄の頂上につく。花柄は長さ1～2.5m、径1～2cmで、水面まで伸び、表面に刺針を持ち、塊茎から 10 余本出る。花の寿命は3日位で、昼間開いて夜間は閉じる。花弁は鮮紫色で多数並び、萼は4個で萼片は花弁より大きく、外側は緑色で、内側は褐紫色である。花が終わると、閉じたまま水中に沈んで結実する。 オニバスにはこの他、開花しない水中花があり、自家受精して結実するものも多い。 果実：果実は長さ5～13 cm、幅5～10 cmの楕円形ないし球形の漿果で、一面の針状の鋭い刺がある。 種子は直径8～10 mmで、淡紅色の斑点を持つ寒天質の仮種皮に包まれる。 果実が熟すと球形の花托の部分が腐り、種子は水面に浮かんで漂う。やがて仮種皮が腐敗して取れると、種子は水中に沈む。		
類似種	スイレン科のなかでは特別大型で、類似するものはない。種子から発芽したばかりの初生葉は水中にあってヒツジグサに似るが、しだいに大型の葉が出るので区別される。		
生息場所	平地にある池沼、溜め池、水路、堀などに自生する。やや富栄養化した水域に生育するが、近年は水質汚濁の進行により各地で激減し、分布も限られてきている。富山県氷見市の万尾川のものは国指定の天然記念物となっている。		
繁殖	種子で越冬し、繁殖するが、発芽率は低い。種子は4～5月頃から発芽する。芽は発芽孔から出て、最初は白色の十字形の突起となって出現する。この突起の基部から幼葉や幼根が出る。種子の寿命へ長く、数年間は発芽力を失わない。		
他生物との関係	カタムクミズメイガの食草である。		
配慮のポイント	育生水域の水質保全に配慮する。		
トピック	中国では果実は倹食子とよび、強壮剤とする。また、種子や若い葉柄は食用となる。		
その他	絶滅危惧Ⅱ類（新潟県ＲＤＢ）　絶滅危惧Ⅱ類（環境省ＲＤＢ）		
引用文献：『川の生物図鑑』を改変			